2024年3月期 Web決算説明会 主な質疑応答記録

日時: 2024年4月26日（金） 12:00 ～ 13:00

出席者: 代表取締役 社長執行役員 横田 浩

代表取締役 専務執行役員 杉村 英男

＜電子先端材料について＞

Q:前回の3Q決算で半導体関連製品の市場回復の順番のイメージはIPA→シリカ→ポリシリコンと説明があった。2024 年度計画において、IPA は戻りつつあるようだが、ポリシリコンの戻る時期のイメージを教えてほしい。

A:見方はいろいろあるが、当社お客様は先端部分が中心なので、全体のポリシリコンの流れの中では比較的早い方だろうと考えている。一方、お客様の在庫の状況もよく勘案する必要があり、回復は下期以降になると考えている。2025年以降はウエハーも立ち上がり、2026年度は半導体市場好調が予想されるため、2024年度下期後半から、お客様の方で在庫の積み増しがあると期待している。

＜ライフサイエンスについて＞

Q:ライフサイエンスの 2024 年度計画の数値はやや低いのではないか。償却負担も考慮されているだろうが、歯科器材の伸びについてはどう見ているか。他のプラスチックレンズ関連材料、医薬品原薬・中間体、診断システムといった事業についてもコメントいただきたい。

A:歯科材料は 2024 年度下期以降伸びていく前提で考えているが、現時点でフル販売であり、需要に追い付いていない。2024年度上期は売るものがない状況。2024年度下期に鹿島工場の新しい生産設備が本格稼働する予定だが、売上への寄与は10%程度。本格的に売上が増えるのは2025年度。
一方、厳しめに見ているのが医薬品原薬・中間体で、2022・2023 年度と出荷が好調だった反動で、2024年度はお客様の在庫状況は調整が入り、売上は少し減る見方をしている。
プラスチックレンズ関連材料は2024年度4Q以降新製品が上市され、2025年に大きく寄与。
ライフサイエンスの製品は輸出比率が高いので、円安で売上高が加算される可能性もある。

＜資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について＞

Q:中期経営計画のROEの目標は11%で据え置かれているが、仮に自己株式取得を200億円くらいすると前倒しも可能ではないか。また、配当性向は 30%を目標としているが、自己株式取得についてはどのように考えているか。

A:資本が積みあがる傾向にあるので、自己株式取得も含めて検討している。ROEとPBRの改善に努めていく。

以上